

回想一東 札幌 小国 孝徳

ニューギニアインパチエンスの一鉢を買ひ来て八月十五日の心つつむニューギニアの羽斑蚊に襲はれしは十三回或る時はGrans Penisを刺せりぬるぬるとせる感触も何のその石の下にひそむ海鼠をつまむニューギニアの海べに捕りし甲蟹とべつこぶの甲羅が妻への土産軍医部長と兵站病院長と聯隊医官吾「羽衣」を謡へり戦終りて

肝機能 帯広 中野 知弘

年ごとに数へ行くべき頃ほひは片手^み充つればよろこびとせむ不可逆の経過といへどそはならじ緩めむとして薬包^{やくほう}ひらくはるけくも患^{わづ}ひくるに酒断ちぬ肝機能のみ空しく正し胃のうしる壁と壁とがすり合ひて管のぼりくる塊ひとつ一日は軽くも重し秋の陽に染まりて赤き玄関に入る

桜花 札幌 魚住あらた

吾れるまの手をし見れば母想ふつくつたりきその加護をし想ふわれにある手をしみれば母想ふつくつたりきその加護がほしとつくつくと満開の桜咲きつぎて花をしみればその登場を朝毎に桜の花つぎつぎとつくつたりきその加護をわが余白温めてくれし桜花そのあてもなくつくつたりき

北海道医報人會詠草



晩秋のうた 札幌 古屋 統

朝刊のお悔やみ欄に載る人の年齢を見る習慣がつくお悔やみの欄に載る人われよりも年嵩なるは徐々に少なき新聞に知友の死あり弔問は一日迷いて礼を欠きたり高年の同窓会ブームの記事を見る集うエネルギー我ら失うクラス会やめたる我らまた一人欠けし報せが電話で届く

生きる 美唄 吉村 誠治

一病や二病をもちて生き行かむこれが長寿の秘訣なるやも夫々に生き方ややうやう思えたりき人の一生かくて終るらん喜寿過ぎて体調崩せし友多く同期の集ひ淋しさかくせず自らの満足出来る居場所なきか病院移りし友の訃報あり今日も又閉院の知らせ届きたり体調悪しと無念なるらん

天南星 札幌 山口 康徳

うす暗き闇に息づく天南星^{てんなんしやう}かつて毒草いまやオプジエと赤道の温度あがるやハリケーン次はいつこと満を持しをり異国に人や物など多く出し自国の災害留守にするとは南国の椰子は強靱^{かぜ}台風来るもそこに堪へ^{しよ}撓りまたすぐ原形へ海の水三〇度とならばハリケーンおそまき乍らそに氣づく大國